

背骨の放射線治療を受ける方へ

これから放射線治療が始まります。

決められた治療を最後まで受けていただくためにも、次のことに注意しましょう。

気になること、不安なことがあれば我慢せずにスタッフにご相談ください。

1.放射線治療について

- ・CT検査時と同じ体勢で治療を行います。

義歯・眼鏡・補聴器・帽子・カツラ・ヘアピン・ヘアゴム、アクセサリなど全て外して頂きます。

- ・放射線治療は痛みや熱などを伴う治療ではありません。
- ・治療は決められた回数の治療が必要です。
- ・治療部位に正確に放射線があたるように、照射中はお体をなるべく動かさないでください。
- ・咳やくしゃみ、眠ってしまったっても大丈夫です、楽にしてください。
- ・治療中に息を止める必要はないので、安静な呼吸をしてください。
- ・BGMをおかけします。お手持ちのCDをご持参いただいても結構です。
- ・皮膚の印が薄くなった場合は、スタッフが書き直すのでご自分でお書きにならないでください。
- ・治療中は治療室に患者様お一人になりますが、カメラで様子を見ています。また経過時間をマイクでお知らせしますのでご安心ください。
- ・何かありましたらナースコールでお知らせください。(途中でマスクを外し休憩することも出来ます。)
- ・マスクの網目の痕が顔面に30分程度残りますが、すぐに消えます。
- ・治療終了後はマスクをお持ち帰りすることが出来ます。(お申し出ください。)
- ・ロボットは患者様から約50cmの距離をおいて移動します。
- ・治療時間は一回あたり約30分から1時間ほどです。

2. 体の変化について

治療期間中

① 皮膚

治療範囲の皮膚が赤くなったり、熱を持ったり、かゆくなったり、乾燥、日焼けしたようになることがあります。

② 気分の変化

放射線により、乗り物酔いのような頭痛やめまい、吐き気などの症状が出る場合があります。一時的なものです。我慢せず、スタッフにご相談ください。

③ 痛みの増強

放射線による炎症により、一時的に治療範囲に痛み、発熱がでることがあります。またけいれんの起こる可能性があります。

④ 食道

炎症が発生して、ひりひりする感じ、飲み込みづらさがすることがあります。

⑤ 腸

炎症が発生して、下痢が起こりやすくなります。

⑥ 胸部

放射線治療期間の後半から終了後数ヶ月の間に炎症が発生して、咳、微熱、息苦しさを感じる場合があります。

⑦ 骨髄抑制

免疫機能が低下しやすくなります。

炎症による痛みなどは冷やすことで軽減することもあります。

治療終了後

・数週間から数ヶ月後

皮膚、粘膜の炎症による発赤や潰瘍で痛みが出ることがあります。

・数ヶ月から数年後

周囲に壊死や浮腫、血管の閉塞が起きることがあります。

頸部、口腔、鼻腔などの場合では粘膜、皮膚の潰瘍、骨壊死等が起きる可能性が有ります。

・10年以降

放射線が当たった部分に、髄膜腫や脳腫瘍が出来たとの報告がありますが、これらが発生する可能性はきわめて低いです。(0.01%程度)

重症化することもありますので、治療後も定期的に診察を受けて下さい。

3. 日常生活について

- ① できるだけ水分の多い食べ物(おかゆ・おじやなど)をとりましょう。
- ② 食事はよく噛んでから、飲み込みましょう。
- ③ 治療中、次のものは口の粘膜を傷つけるおそれがあるので、絶対に控えましょう。
酒・タバコ・辛いもの・固いもの・熱すぎたり冷たすぎるもの・酸味の強いもの
(梅干し・みかん・レモンなど)
- ④ うがいを頻繁にして、口の中を清潔にしましょう。
歯ブラシは使わず、やわらかいガーゼや綿棒などで歯をきれいにしてください。
- ⑤ 体を洗う際は、爪を立てたり、強くこすらないようにしましょう。
- ⑥ 衣服が刺激になるためにゆったりとした服を着ましょう。
- ⑦ 髭剃りは電気カミソリを軽く当てて使い、直接肌に刃があたるカミソリは使わないようにしましょう。
- ⑧ 直射日光は皮膚に負担をかけるので、外に出るときは帽子、スカーフ、マフラーなどをかぶりましょう。
- ⑨ 治療期間中の歯科治療については医師に相談ください。(血がでるような処置はさけてください)

医療法人DIC 宇都宮セントラルクリニック

放射線治療センター

TEL 028-657-6700

FAX 028-657-670

(平日9時～17時)

